

# 老松神社古墳群

配水池築造工事に伴う発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書

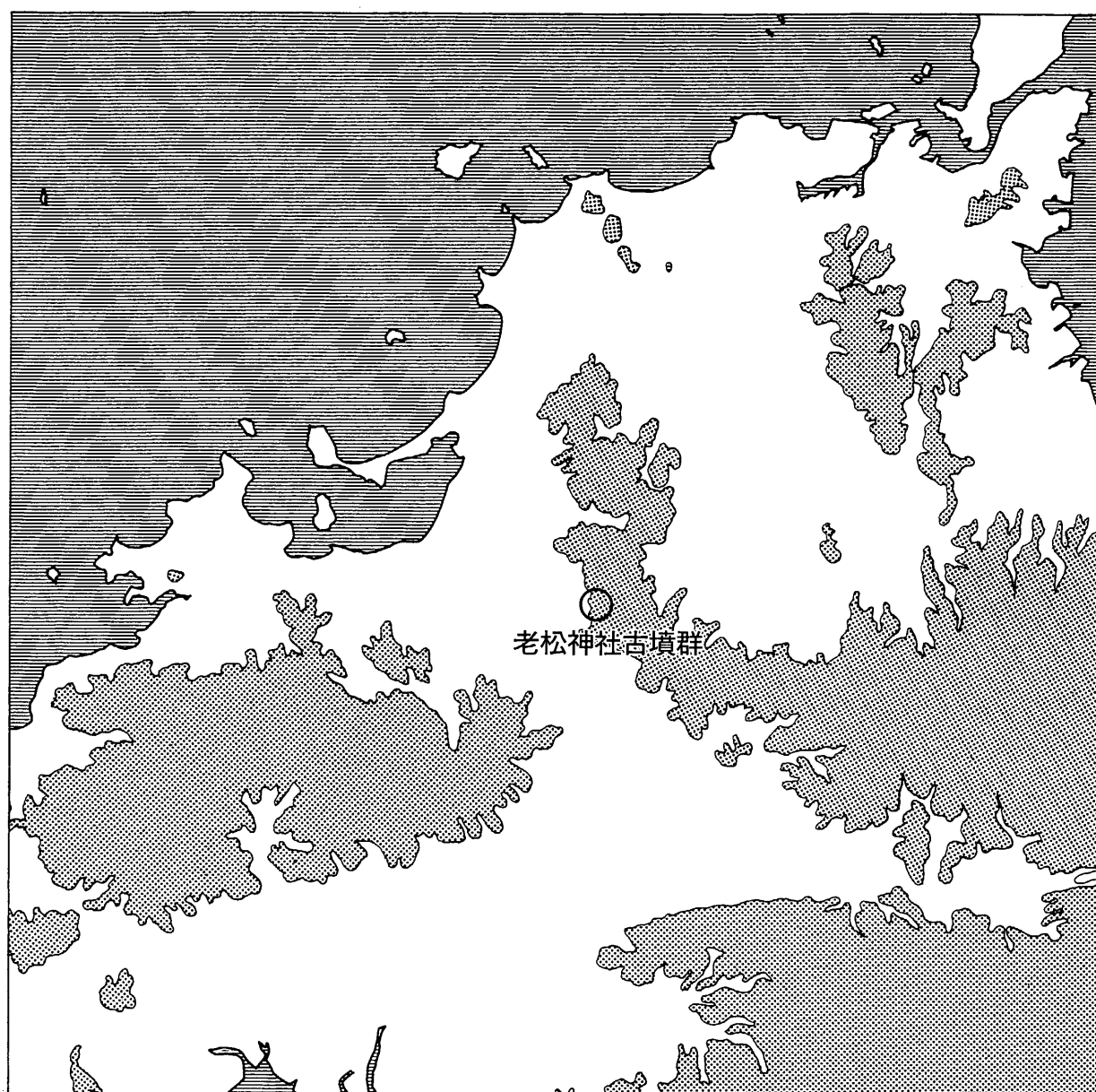
第50集

2002

筑紫野市教育委員会

# 老松神社古墳群

配水池建設に伴う発掘調査



## 例 言

1. 本書は、筑紫野市教育委員会が平成7年度に実施した「筑紫野市水道局阿志岐配水池」築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、筑紫野市水道局（現筑紫野市上下水道部）の委託を受けて筑紫野市教育委員会・社会教育課（現文化課）文化財担当が実施した。
3. 調査に係る遺構実測ならびに個別写真撮影は、渡邊和子が行い、空中写真については、（有）空中写真企画で委託撮影した。
4. 遺構の掲載にあたっては、土壙をSK、溝をSDの略号とした。
5. 本書掲載の遺物の実測は渡邊が行い、一部を（株）埋蔵文化財サポートに委託した。
6. 遺物写真の撮影については、フォトハウスOKAに委託した。
7. 遺物の挿図番号と図版番号は同一であり、遺物写真の大きさは不統一である。
8. 報告書掲載の図版の製図は、（有）文化財テクノアシストに委託した。
9. 挿図中に使用した方位は、国土調査法Ⅱ座標系を基準とし、個別の図は磁北を使用した。
10. 遺物の復元および整理作業には、浅谷芳江・加藤美智子・高木保子・松尾敦子・百田愛子・山内妙子が従事した。
11. 本書の執筆・編集は、渡邊が行った。

# 目 次

## 本文

|                       | 頁    |
|-----------------------|------|
| I. 調査に至る経過 .....      | 1    |
| II. 位置と環境 .....       | 1    |
| III. 調査の内容 .....      | 2    |
| (1) その他の遺構および遺物 ..... | 5    |
| (2) 1号墳 .....         | 9    |
| (3) 2号墳 .....         | 9～23 |
| IV. まとめ .....         | 23   |

| 挿図 (Fig.)                        | 頁  | 図版 (PL.)        | 頁  |
|----------------------------------|----|-----------------|----|
| Fig.1 周辺古墳時代遺跡分布図 (S1/10,000)    | 3  | PL.1 2号墳および周辺遺構 | 5  |
| Fig.2 老松神社古墳群位置図 (S1/2,500)      | 4  | PL.2 その他の遺構出土遺物 | 6  |
| Fig.3 2号墳および周辺遺構配置図 (S1/100) 折込み |    | PL.3 2号墳現況      | 8  |
| Fig.4 その他の遺構出土遺物 (S1/3・2/3)      | 6  | PL.4 石室全景       | 11 |
| Fig.5 2号墳現況地形測量図 (S1/200)        | 8  | PL.5 床面         | 12 |
| Fig.6 石室実測図 (S1/30) 折込み          |    | PL.6 前室         | 13 |
| Fig.7 遺物出土状況 (S1/40・1/6・1/8)     | 15 | PL.7 遺物出土状況     | 14 |
| Fig.8 出土遺物実測図 (S1/3・2/3・1/4)     | 16 | PL.8 出土遺物       | 17 |
| Fig.9 出土鉄器実測図 (S2/3)             | 18 | PL.9 出土鉄器       | 19 |
| Fig.10 閉塞部残存状況 (S1/40)           | 21 | PL.10 閉塞部       | 20 |
| Fig.11 地山整形図 (S1/200)            | 22 |                 |    |

## 表

|                   |    |
|-------------------|----|
| 表-1 ピットおよび出土遺物一覧表 | 7  |
| 表-2 出土釘・鉄鏃一覧表     | 21 |
| 表-3 掲載遺物観察表       | 24 |

## 付図

|                 |          |
|-----------------|----------|
| 老松神社古墳群および調査範囲図 | (S1/200) |
|-----------------|----------|

## I. 調査に至る経過

筑紫野市水道局（現筑紫野市上下水道部）では、筑紫野市大字阿志岐に水資源対策として配水池の築造を計画策定、平成6年に建設予定地が決定され、予定地内の文化財の所在の有無について筑紫野市教育委員会への照会がなされた。これを受けて市教育委員会では、予定地内には周知の遺跡が存在する事から協議を行い、事前に試掘・確認調査を行う必要がある旨を伝えた。

平成7年度に進入路分（6,000㎡）について改めて協議があり、具体的な作業にかかった。進入路予定地の試掘調査を実施し、並行して、遺跡の所在の有無確認調査を行った。

また配水池築造予定地内には、多くの弥生土器が散布することと周知の遺跡である老松神社古墳群が含まれることから文化財保護法第57条の3項の通知を文化庁に進達した。この結果福岡県教育委員会より予定地の4,500㎡を工事着手前に発掘調査を実施する旨の通知があり、筑紫野市水道局に伝達を行った。

発掘調査は、同年8月4日付けで筑紫野市水道局と教育委員会が埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、8月22日より現地での調査を開始した。

### 発掘調査の組織

|      |         |             |
|------|---------|-------------|
| 総括   | 教育長     | 永 渕 正 敏     |
|      | 〃       | 高 嶋 正 武（現任） |
|      | 教育部長    | 永 田 晋 一     |
|      | 〃       | 岡 部 隆 充（現任） |
| 庶務   | 社会教育課課長 | 岡 部 隆 充     |
|      | 文化課課長   | 田 中 哲 也（現任） |
|      | 文化財担当係長 | 森 實 秀 美     |
|      | 課長補佐兼係長 | 古 賀 幸 信（現任） |
|      | 臨時職員    | 中 富 貴代美     |
|      | 〃       | 西 村 真 美（現任） |
| 事前協議 | 技 師     | 草 場 啓 一     |
| 発掘調査 | 〃       | 渡 邊 和 子     |
| 整理報告 | 〃       | 〃           |

## II. 位置と環境

老松神社古墳群は筑紫野市大字阿志岐に所在する。

筑紫野市の東部にあたるこの付近には、筑後川の支流である宝満川が流れる。宝満川の両岸は、肥沃な沖積平野を形成し、数多くの遺跡の所在することでも知られる。

古墳の位置する宮地岳（標高338.9m）は、この宝満川の中流域の東側にあって西麓には古墳が群集し、北から田代古墳群・杉の谷古墳群・阿志岐古墳群A～D群・脇道古墳群・老松神社古墳群・天山古墳群などの古墳群が形成されていて、現在80基ほどが確認されているが、その数はさらに数倍になると予想され市域で最も多くの古墳群の集中する所である。

また平成11年には、この宮地岳の西側山腹に「宮地岳古代山城跡」の土塁を伴う列石や石塁が発見されたことも記憶に新しい。

この地域では、これまで田代古墳群、杉の谷古墳群1～3号墳（註1）、阿志岐古墳群A群3号墳では初期横穴式石室（註2）を阿志岐古墳群B群21～25号墳（註3）では割竹形木棺を主体部にもつものなどの発掘調査がなされ、この周辺域での横穴式石室、竪穴系横口式石室、割竹形木棺を内部主体部にもつ古墳の所在が、僅かずつではあるが明らかになってきている。

また宝満川を挟んで宮地岳対岸には高尾山から派生した丘陵が連なる。この丘陵上には、弥生時代に起源をもつ墳丘墓が造営されている。内部主体が割竹形木棺で方格規矩鏡を出土した菖蒲浦1号墳（註4）や方形・円形周溝墓の並列する峠山遺跡などが確認されていて、宝満川を挟んで東西に位置する、これらの古墳群は小地域に台頭した有力世帯共同体の世帯主が首長級へと成長していった過程を示すものとして注目されている。

このように宮地岳の西麓付近は、宝満川中流域の沖積平野を生産基盤とする古代家族集団の墓地の営まれた所であり、興味深い場所でもある。

宮地岳西麓の各々の古墳群の所在する地形は、宮地岳山頂から八ッ手状に延びた山陵の尾根上や斜面部に古墳が構築されて分立し、各々がグループを構成する。

分立したグループが集团的つながりをもつか否かは、今後の課題である。

今回調査した老松神社古墳群は、宮地岳の西麓に位置する古墳群の中ではやや南側にある。

宮地岳の山頂部より派生した緩やかな山陵の先端近くの斜面部に所在し、南側は小さな谷に面していて、この谷を挟んで同様な緩山陵の先端部に古墳群の名称となった老松神社が位置している。また割竹形木棺を内部主体にもつ阿志岐古墳群B群21～25号墳は、ここより北西側450mに位置している。

註1 杉の谷古墳群・カケ塚古墳埋蔵文化財調査報告書 筑紫野市文化財調査報告書第2・3集 1979 筑紫野市教育委員会

註2 阿志岐シメノグチ遺跡 筑紫野市文化財調査報告書第1集 1972 筑紫野市教育委員会

註3 阿志岐古墳群（阿志岐古墳群B群21～25号墳の調査） 筑紫野市文化財調査報告書第7集 1982 筑紫野市教育委員会

註4 菖蒲浦古墳群の調査 太宰府町文化財第1集 1976 太宰府町教育委員会

### III. 調査の内容

調査対象範囲内には、昭和46年の分布調査の所見では2基の古墳の所在が確認されている。周辺域は、開発の及んでいない所と考えていたが調査開始段階では、1号墳が所在したと思われる所は、木材の切り出しに伴う山陵の削平によって、古墳の痕跡すらのこっていなかった。周辺域では、木材の切り出しは頻繁に行われているようであり、分布調査によって確認された古墳群に関しても再度確認する必要性があると考えられる。

調査対象地区4,500㎡の全域に遺物が多く散布することから、2号墳を除く全域に試掘トレンチを設定し、遺構の所在を確認したが、散布する遺物に比較して遺構の検出は、ごく僅かであった。

このため明確に遺構として捉えられる2号墳の周辺域700㎡に限って本調査対象とした。また遺物は、弥生時代の土器片が多く強度の摩滅は認められないが、祭祀に使用する丹塗りの土器片が含まれるのを特徴とする。このことは、この山陵上の頂部近くに弥生時代の祭祀遺構が所在している可能性を想定することができる。老松神社古墳群に限らず宮地岳西麓には、同様な遺物が出土する山陵部があるとも聞く。ただ現地の標高や平野部からの比高差を考慮しても甕棺などに伴う祭祀とも考え難く、ある意味特殊な祭祀を想像させることを問題として上げておきたい。





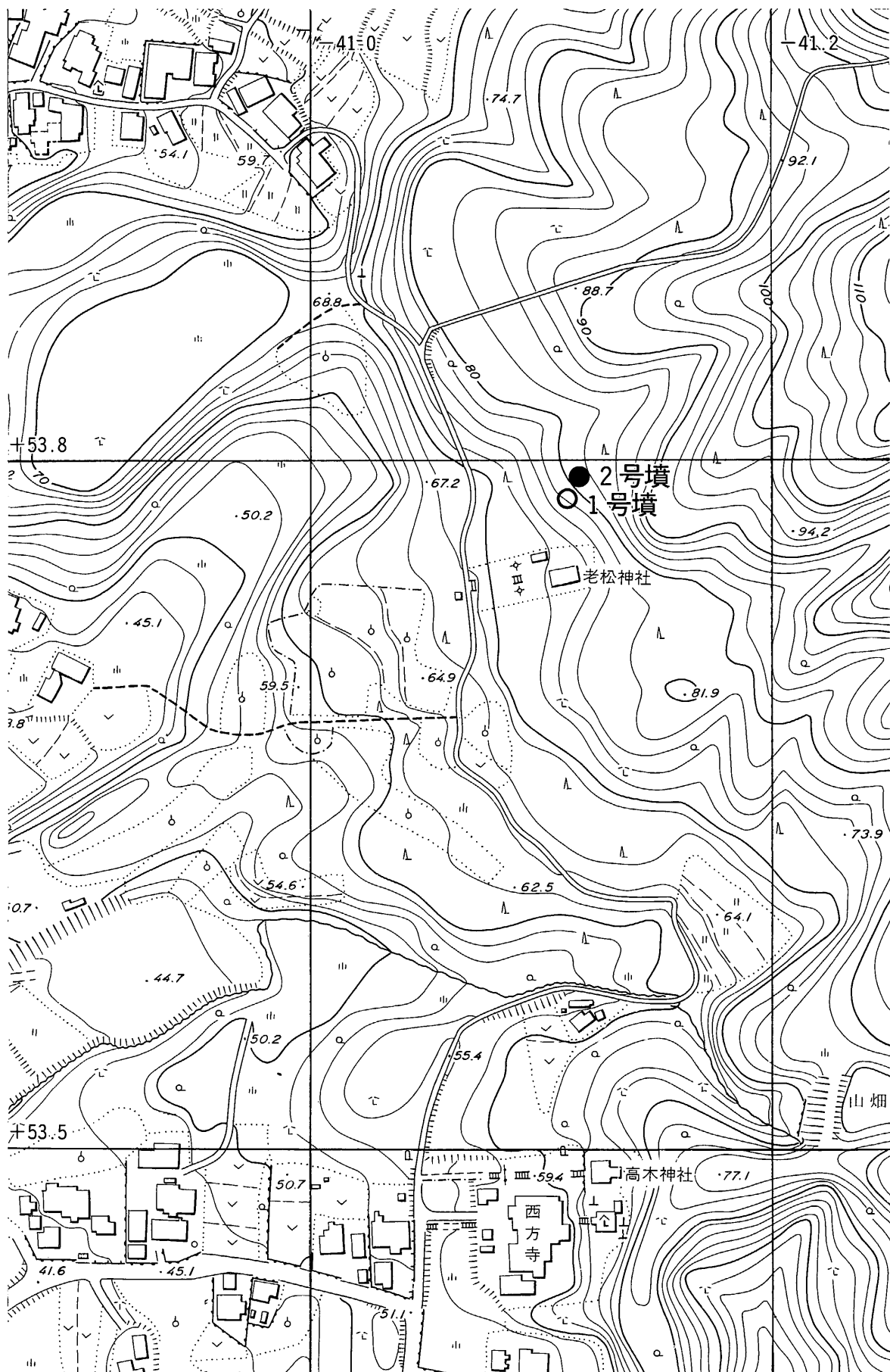


Fig.2 老松神社古墳群位置図 (S1/2,500)





Fig.3 2号墳および周辺遺構配置図 (S1/100)

## (1) その他の遺構および遺物 (Fig.3・4, PL.2)

Fig.3で示すように明確に遺構として捉えられるものは、ピット108、溝状遺構3条、土坑3基のみである。

ピットの遺存は総体的に悪く、深さも10cm前後しかなく、規則的にならんだり、掘り方のしっかりしたものもなく建物跡としてはまとまらない。また出土した遺物は、弥生時代の甕の胴部片や底部片もしくは、黒曜石の剥片や碎片で図示できるものは少ない。

### SK1

短軸1.3×長軸1.9mを測り、平面形状は、ややすづまりの長方形を呈す。壁の西辺は直線的だが東辺はやや蛇行し、南北の壁は、僅かに弧を描き、立ち上がりは直に近い。床面は平坦で、北東部の中央付近にピットがあるほかは、なにも検出できなかった。

### SK2

短軸1.2×長軸2.1mの不整楕円形の形状を呈す。壁の立ち上がりは緩やかで遺存の良いところで10cm程で総体的に残りは悪く、床面は中心付近が僅かに深くなるように弧を描く。また内にあるピット48・49の埋土には焼土を多く含むが、壁や床面が熱を受けた痕跡はない。同様に本体の壁や床面にも熱を受けた痕跡はなく炉跡とは考え難い。

### SK3

平面形状は、短軸1×長軸1.5mの不整形をなし、壁は直に立ち上がる。床面は平坦をなし深さは5cm程で遺存状況は悪い。

### SD1・2

SK1を中心として東西にSD1・2が、検出された。

これらは所在の確認されていなかった古墳の可能性も想定できることから周辺部を精査したが、南側は削平され段落ちとなる。周辺の地形の改変は極度に進んでいて、墳丘や地山整形の痕跡すら確認することはできなかった。

これが古墳と考えたときに古墳の主体部はSK1が想定される。しかし、SK1の床面には、石の抜き取り跡らしきものもなく石室の掘り方であったかの疑問はのこる。

ただSK1の中心部から東西に4mほどの位置することは、根拠資料が少ないとはいえ、規模7～8mの時期の違う古墳が所在した可能性は否定できない。



PL.1 2号墳および周辺遺構

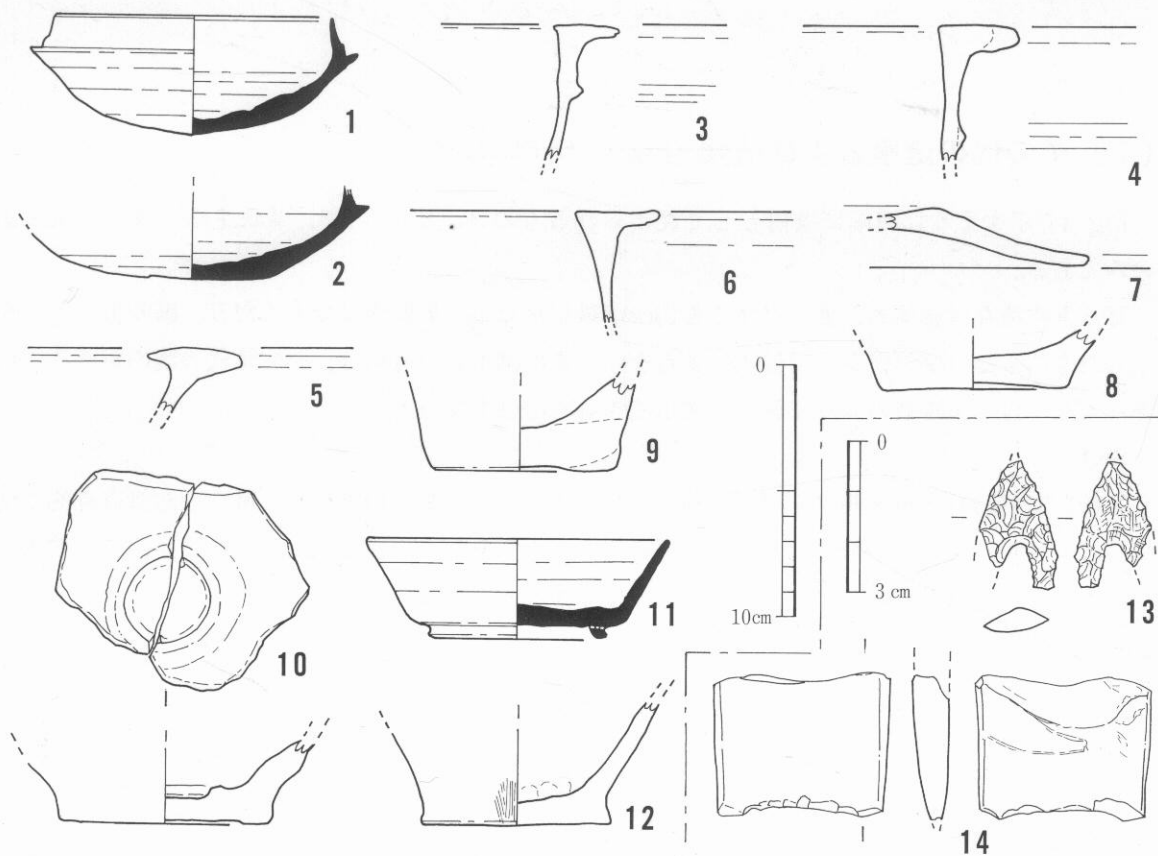
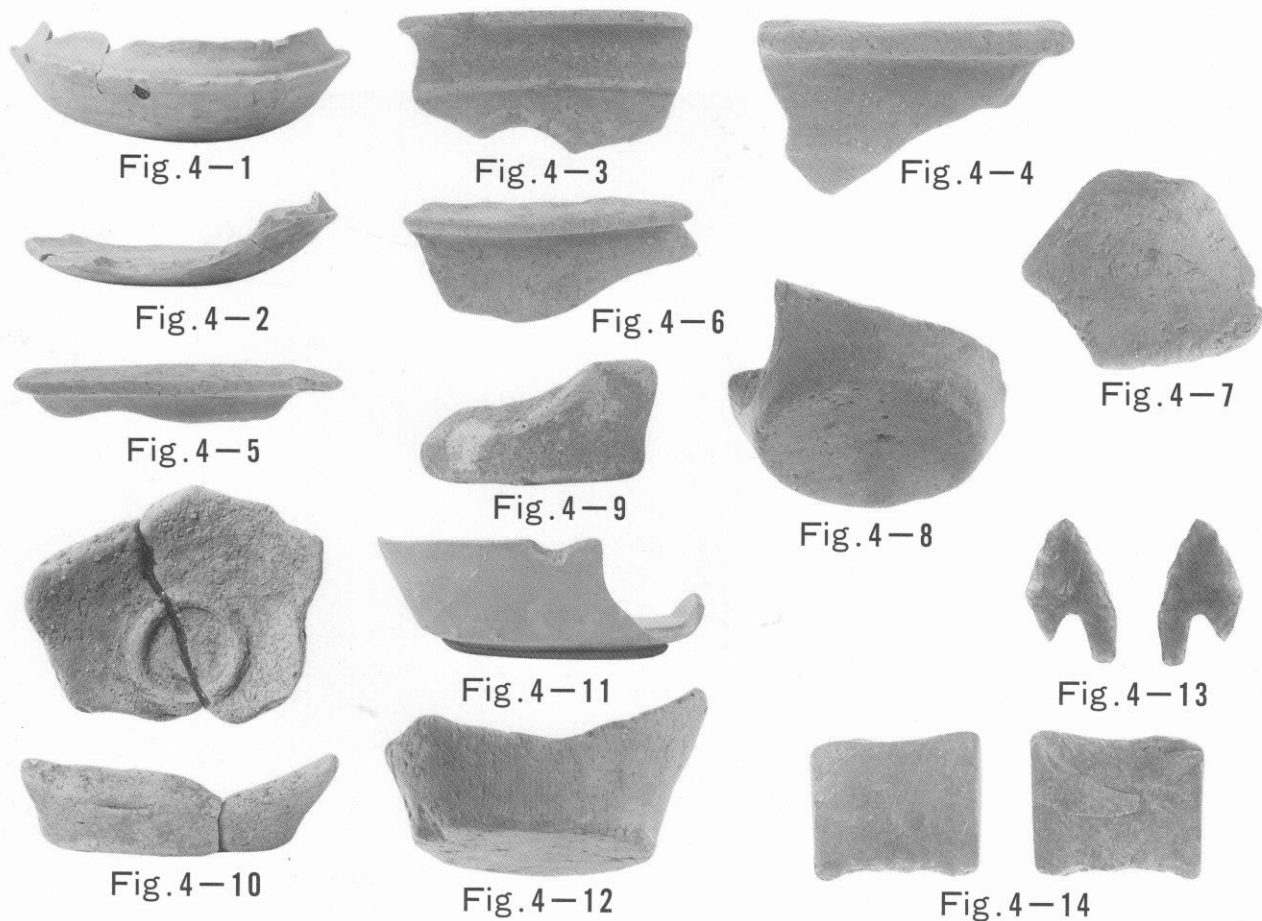


Fig.4 その他の遺構出土遺物 (S1/3・2/3)



PL.2 その他の遺構出土遺物

表-1 ピットおよび出土遺物一覧表

| 号  | 形 状  | 大きさ (m)                          |                      |                      | 出土遺物                    | 備 考               | 号  | 形 状   | 大きさ (m)                |                      |                      | 出土遺物                       | 備 考               |
|----|------|----------------------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|-------------------|----|-------|------------------------|----------------------|----------------------|----------------------------|-------------------|
|    |      | 長                                | 幅                    | 深                    |                         |                   |    |       | 長                      | 幅                    | 深                    |                            |                   |
| 1  | 楕円形  | 0.62<br>0.50                     | 0.50<br>0.38         | 0.16<br>0.13         | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       | pit2を切る           | 40 | 楕円形   | 0.50<br>0.22<br>0.08   | 0.34<br>0.28<br>0.20 | 0.09<br>0.23         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 2  | 不整円? | 0.32+ $\alpha$<br>0.30+ $\alpha$ | 0.52<br>0.40         | 0.06                 | 弥生土器                    | pit1に切られる         | 41 | 円形    | 0.40<br>0.08<br>0.12   | 0.38<br>0.24<br>0.12 | 0.05<br>0.34         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 3  | 欠番   |                                  |                      |                      |                         |                   | 42 | 不整形   | 0.14<br>0.98           | 0.88<br>0.80         | 0.05<br>0.09         | フレーク(黒曜石、サヌカイト)<br>鉄片、弥生土器 | pit43に切られる        |
| 4  | 楕円形  | 0.26<br>0.18                     | 0.14<br>0.10         | 0.11                 | 弥生土器                    |                   | 43 | 不整円   | 0.84<br>0.80           | 0.64<br>0.50         | 0.10<br>0.26<br>0.41 | フレーク(黒曜石、サヌカイト)<br>弥生土器    | pit42を切る<br>テラスあり |
| 5  | 円形   | 0.36<br>0.24                     | 0.34<br>0.14         | 0.22                 | 弥生土器                    |                   | 44 | 不整円   | 0.70<br>0.44           | 0.70<br>0.50         | 0.06<br>0.08         | 弥生土器                       | pitを切る            |
| 6  | 円形   | 0.34<br>0.18                     | 0.32<br>0.18         | 0.18                 | フレーク(サヌカイト)<br>弥生土器     |                   | 45 | 楕円形   | 0.34<br>0.20           | 0.26<br>0.18         | 0.34                 | 弥生土器                       |                   |
| 7  | 楕円形  | 0.46<br>0.36                     | 0.36<br>0.24         | 0.16                 | 弥生土器<br>フレーク(黒曜石)       |                   | 46 | 楕円形   | 0.50<br>0.24+ $\alpha$ | 0.34<br>0.22         | 0.19                 | 弥生土器                       | pitを切る            |
| 8  | 円形   | 0.40<br>0.20                     | 0.36<br>0.20         | 0.28                 | 弥生土器                    |                   | 47 | 欠番    |                        |                      |                      |                            |                   |
| 9  | 円形   | 0.24<br>0.10<br>0.10             | 0.26<br>0.18<br>0.20 | 0.19<br>0.24         | 石鉄(黒曜石)<br>弥生土器         | テラスあり             | 48 | 不整円   |                        |                      |                      | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          | 焼土                |
| 10 | 円形   | 0.24<br>0.18                     | 0.24<br>0.14         | 0.19                 | フレーク(黒曜石)               |                   | 49 | 楕円形   | 0.50<br>0.34           | 0.40<br>0.34         | 0.11                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          | SK2を切る            |
| 11 | 楕円形  | 0.72<br>0.20<br>0.10             | 0.50<br>0.10<br>0.12 | 0.17<br>0.28<br>0.26 | 弥生土器                    | テラスあり             | 50 | 楕円形   | 0.56<br>0.42           | 0.44<br>0.34         | 0.09                 | 弥生土器                       | pitを切る            |
| 12 | 楕円形  | 0.30<br>0.20                     | 0.18<br>0.10         | 0.20                 | 弥生土器                    | pitを切る            | 51 | 円形    | 0.52<br>0.08<br>0.10   | 0.42<br>0.32<br>0.10 | 0.12<br>0.53         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 13 | 楕円形  | 0.38<br>0.10<br>0.10             | 0.26<br>0.20<br>0.10 | 0.14<br>0.24         | 弥生土器                    | テラスあり             | 52 | 円形    | 0.40<br>0.26           | 0.42<br>0.24         | 0.11                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          |                   |
| 14 | 楕円形  | 0.22<br>0.20                     | 0.32<br>0.22         | 0.16                 | 弥生土器                    |                   | 53 | 楕円形   | 0.80<br>0.08<br>0.36   | 0.64<br>0.40<br>0.22 | 0.21<br>0.35         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 15 | 円形   | 0.36<br>0.28                     | 0.40<br>0.26         | 0.22                 | 弥生土器                    |                   | 54 | 楕円形   | 0.44<br>0.28           | 0.42<br>0.20         | 0.30                 | 弥生土器                       |                   |
| 16 | 不整円  | 0.60<br>0.34<br>0.10             | 0.42<br>0.36         | 0.16<br>0.26         | 弥生土器                    | pit17に切られる        | 55 | 円形    | 0.40<br>0.20           | 0.40<br>0.20         | 0.20                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          |                   |
| 17 | 円形   | 0.26+ $\alpha$<br>0.12           | 0.26<br>0.14         | 0.34                 | 弥生土器                    | pit16を切る          | 56 | 楕円形   | 0.32<br>0.28           | 0.28<br>0.14         | 0.29                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          |                   |
| 18 | 円形   | 0.50<br>0.10<br>0.12             | 0.54<br>0.30<br>0.20 | 0.29<br>0.44         | 弥生土器                    | テラスあり             | 57 | 楕円形   | 0.32<br>0.18           | 0.24<br>0.08         | 0.42                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          | テラスあり             |
| 19 | 楕円形  | 0.48<br>0.26                     | 0.32<br>0.20         | 0.15                 | 弥生土器                    |                   | 58 | 楕円形   | 0.50<br>0.28           | 0.34<br>0.18         | 0.30                 | 弥生土器                       | SK3を切る            |
| 20 | 楕円形  | 0.38<br>0.08<br>0.10             | 0.40<br>0.22<br>0.16 | 0.22<br>0.36         | 須恵器<br>弥生土器             | pit21を切る<br>テラスあり | 59 | 楕円形   | 0.22<br>0.16           | 0.20<br>0.16         | 0.22                 | 弥生土器                       | SK3を切る            |
| 21 | 不整円  | 0.20+ $\alpha$<br>0.14+ $\alpha$ | 0.32<br>0.20         | 0.05                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       | pit20に切られる        | 60 | 欠番    |                        |                      |                      |                            |                   |
| 22 | 楕円形  | 0.32<br>0.08<br>0.06             | 0.18<br>0.10         | 0.26<br>0.34         | 弥生土器                    | pit23を切る<br>テラスあり | 61 | 楕円形   | 0.34<br>0.20           | 0.30<br>0.22         | 0.14                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          |                   |
| 23 | 楕円形  | 0.40<br>0.20                     | 0.32<br>0.08         | 0.39                 | 弥生土器                    | pit22に切られる        | 62 | 楕円形   | 0.44<br>0.12           | 0.40<br>0.18         | 0.32                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          |                   |
| 24 | 円形   | 0.30<br>0.16                     | 0.32<br>0.18         | 0.10                 | 弥生土器                    |                   | 63 | 不整円   | 0.38<br>0.20           | 0.33<br>0.22         | 0.42                 | フレーク(サヌカイト)<br>弥生土器        | pitを切る            |
| 25 | 楕円形  | 0.44<br>0.30                     | 0.34<br>0.24         | 0.20                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       |                   | 64 | 楕円形   | 0.46<br>0.32           | 0.34<br>0.18         | 0.25                 | 弥生土器                       | pit65を切る          |
| 26 | 円形   | 0.44<br>0.22                     | 0.38<br>0.20         | 0.06                 | 弥生土器                    | pit27を切る          | 65 | 楕円形   | 1.34                   | 1.02                 | 0.19                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          | pit64に切られる        |
| 27 | 不整円  | 0.32+ $\alpha$<br>0.24+ $\alpha$ | 0.30<br>0.22         | 0.11                 | 弥生土器                    | pit26に切られる        | 66 | 不整円?  | 0.96+ $\alpha$         | 1.14                 |                      | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器          | トレンチに切られる         |
| 28 | 楕円形  | 0.38<br>0.22                     | 0.26<br>0.12         | 0.12                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       | pit29を切る          | 67 | 楕円形   | 0.62<br>0.34           | 0.50<br>0.34         | 0.09                 | 弥生土器                       |                   |
| 29 | 楕円形  | 0.88<br>0.62                     | 0.44<br>0.24         | 0.12<br>0.17         | 弥生土器                    | pit28・30に切られる     | 68 | 楕円形   | 0.26<br>0.18           | 0.22<br>0.10         | 0.09                 | 弥生土器                       |                   |
| 30 | 楕円形  | 0.58<br>0.42                     | 0.44<br>0.24         | 0.11                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       | pit29を切る          | 69 | 楕円形   | 0.24<br>0.12<br>0.12   | 0.24<br>0.08<br>0.04 | 0.16<br>0.10         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 31 | 不整円  | 0.36+ $\alpha$<br>0.30+ $\alpha$ | 0.42<br>0.30         | 0.12                 | 弥生土器                    | pit32に切られる        | 70 | 楕円形   | 0.30<br>0.08<br>0.04   | 0.30<br>0.16<br>0.10 | 0.15<br>0.19         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 32 | 楕円形  | 0.32<br>0.26                     | 0.26<br>0.14         | 0.10                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       | pit31を切る          | 71 | 楕円形   | 0.38<br>0.06<br>0.18   | 0.34<br>0.20<br>0.06 | 0.32<br>0.55         | 弥生土器                       | テラスあり             |
| 33 | 楕円形  | 0.30<br>0.16                     | 0.18<br>0.10         | 0.16                 | 弥生土器                    |                   | 72 | 円形    | 0.40<br>0.20           | 0.42<br>0.18         | 0.18                 | 弥生土器                       |                   |
| 34 | 楕円形  | 0.52<br>0.30                     | 0.40<br>0.22         | 0.33                 | フレーク(黒曜石)<br>弥生土器       | SD2を切る            | 73 | 楕円形   | 0.40<br>0.10<br>0.10   | 0.34<br>0.18<br>0.12 | 0.11<br>0.19         | 須恵器<br>弥生土器                | テラスあり             |
| 35 | 楕円形  | 0.50<br>0.40                     | 0.38<br>0.20         | 0.41                 | フレーク(黒曜石)<br>須恵器、弥生土器   |                   | 74 | 楕円形   | 0.36<br>0.24           | 0.24<br>0.18         | 0.11                 | 弥生土器                       |                   |
| 36 | 楕円形  | 0.32<br>0.26                     | 0.36<br>0.26         | 0.19                 | 弥生土器                    | pit37を切る          | 75 | 不整形   | 0.32<br>0.24           | 0.30<br>0.20         | 0.24                 | 弥生土器                       |                   |
| 37 | 不整円  | 0.60<br>0.42                     | 0.60<br>0.50         | 0.21                 | 弥生土器<br>須恵器             | pit36・77に切られる     | 76 | 隅丸長方形 | 0.44<br>0.30           | 0.32<br>0.20         | 0.08                 | 弥生土器                       |                   |
| 38 | 楕円形  | 0.28<br>0.16                     | 0.24<br>0.12         | 0.17                 | フレーク(黒曜石)               |                   | 77 | 楕円形   | 0.34<br>0.28           | 0.28<br>0.20         | 0.10                 | 弥生土器                       | pit37を切る          |
| 39 | 円形   | 0.34<br>0.10                     | 0.28<br>0.14         | 0.29                 | フレーク(黒曜石、サヌカイト)<br>弥生土器 |                   |    |       |                        |                      |                      |                            |                   |



PL.3 2号墳現況

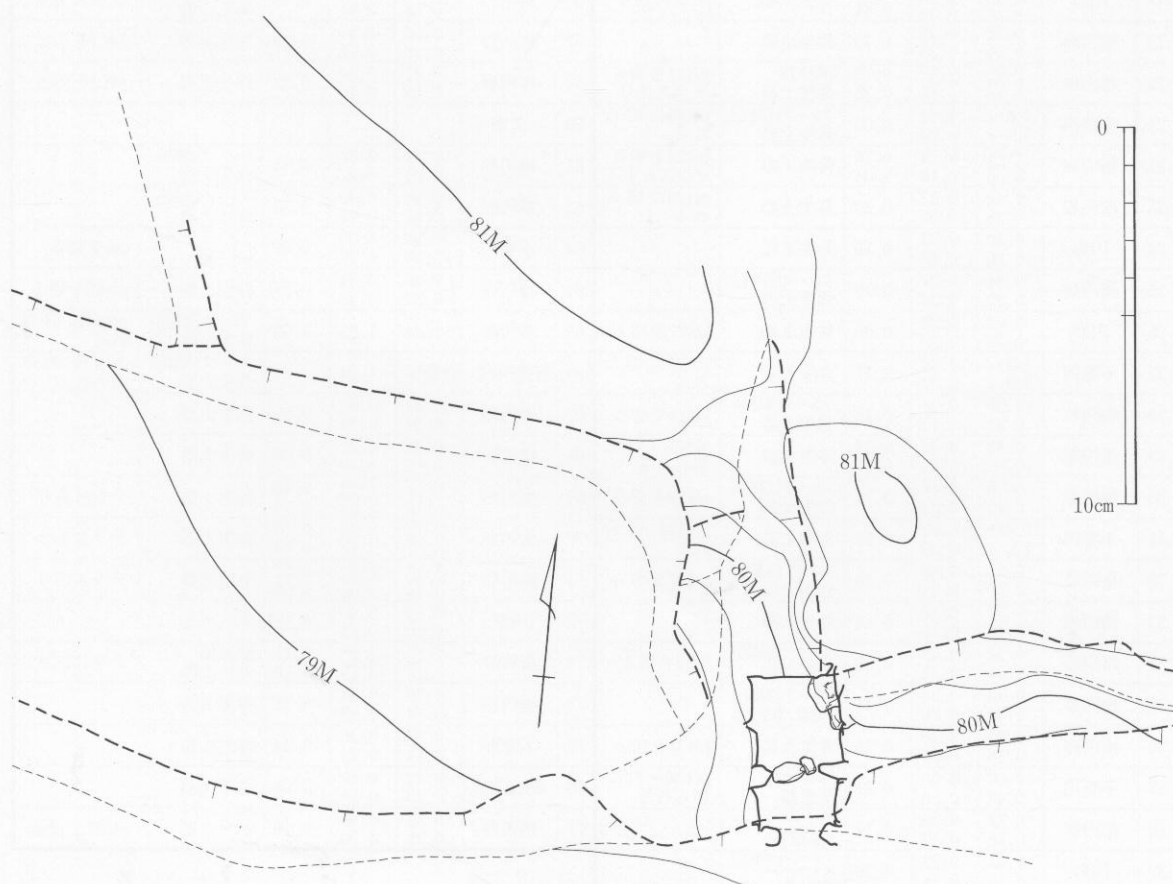


Fig.5 2号墳現況地形測量図 (S1/200)

## (2) 1号墳

### 位置と現状

調査時には、1号墳は、材木切り出しによる道づくりのために旧地形が削平され改変されて1号墳の痕跡すら確認することはできなかった。また遺物の出土もなかった。

昭和46年の遺跡分布地図の所見によれば2号墳の南西側標高78m前後に位置し、墳丘規模径6mで石室内部の構造・規模については不明。墳丘近くで須恵器の大甕の胴部片が表採されたと記載されている。この所見でも時期は判別できない。

## (3) 2号墳

### 位置と現状 (Fig.5, PL.3)

宮地岳西麓はヤツデ状に派生した尾根がいくつもひろがりを見せる。古墳はその尾根の南側に近い尾根の先端部にあつて、老松神社の所在する尾根とは小さな谷で隔てられている。

古墳の所在する尾根は緩やかな傾斜をもち、先端部付近は集落から老松神社への参拝の道路がつくられているために比較的人の出入りのしやすい所となっている。

このために古墳の所在した周辺は著しい地形改変がなされ、尾根である旧地形の面影がなく、いたる所に平坦面がつくられ段々畑の様相を見せる。

2号墳は、この平坦面の一端にあつて天井石と思われる石材や小ぶりの転石がPL.3に示すようにいたる所に散乱していたため古墳は、1号墳と同様にすでに破壊されている可能性も考えられた。

このため石室もかなり石材が抜かれ腰石しか遺存していない状況ではないかと推測されたが、盗掘孔らしい窪みを掘り下げると玄室が確認でき、左側壁側より時計回りにA～Cのトレンチを設定し、墳丘の遺存状況を確認した。

また羨道部や墓道部なども材木の切り出し道によって削平されていて地山が露出していた。

昭和46年の遺跡分布調査時には、天井部の石だけが抜かれていたと考えられる石室の石材は、現状では大半が腰石だけ遺存して、他は抜かれたり玄室内に落としこまれていた。比較的残りの良いのは右側壁の奥壁だけである。

### 墳丘

墳丘調査のためにA～Cの3本のトレンチを設定した。A・Cトレンチの土層確認作業では層序として地山のすぐ上に表土層があるだけで墳丘積み土は全く残っていない状況が示された。

墳丘は広範囲に削平を受けていてほとんど遺存しない。このため墳丘の規模・積み土の状態は確認することはできなかった。Cトレンチ側の段落ち際の表土の中には、人頭大の石材が多く混って出土した。石の検出状況から規則的に配置されたものとは考え難いが、この付近に集中することから列石の存在した可能性を想定させる。しかしAトレンチ側では、極度の削平のため石材さえ検出できなかった。

奥壁側になるBトレンチの層序も表土直下に基盤層の地山が検出されただけで墳丘は残っていない。ただ右奥壁コーナー部分にわずかな墳丘の積み土残りが確認されたが、墳丘の規模・積み土の状態を確認できるものではない。石室前方部も現状は段落ちとなっていて墳丘は失われていた。

またいずれのトレンチの土層からも、周溝の存在も窺うことはできない。



### 主体部 (Fig. 6, PL. 4～6)

斜面の等高線に直角に構築され、標高80m前後に位置する。

主軸をN-15°-Eにとり南に開口する複室の構成の横穴式石室である。

現状で述べたように前室の玄門の框石付近から羨道・墓道部は削平されているため石室の全長は不明である。

後室は長さ2.3m、幅2.28～2.3mを測り、ほぼ正方形のプランを呈す。

奥壁は高さ $1.3\text{m} + \alpha$ 、幅 $2.2\text{m} + \alpha$ の大石を一石で腰石とし、両側壁部は各々二個の石を腰石としている。

石室の石材は奥壁が腰石のみ、右奥側辺部は腰石から三石、右側辺部では腰石から二石、左側辺部では二石もしくは一石の石材が横積みされたのが残り、他の石材は抜かれたり石室内に落としこまれていた。石の積み方は、遺存状況の良い所から判断して持ち送りしていたと思われる。

腰石間の隙間には、わずかに小ぶりの石が充填されている。

床面には10～20cm前後の礫が、全面に敷かれていて、これが当初からの敷石かと考えられる。ただFig. 7にあるように部分的に別の敷石が確認された。これらは追葬時にこの礫の敷石の上面に新たに20～30cmの偏平な石を使用して敷石とした可能性がある。

玄門右袖石には、高さ $1.5\text{m} + \alpha$ 、幅70cmの柱状の石を左袖石には高さ $1.3\text{m} + \alpha$ 、幅1mの柱状の石を用いて玄門としている。玄門部の幅は、框石上で1.15mを測る。

框石は、大小二個の石を配置。大きめの石は長さ90cm、幅40cm前後の柱状の石で左袖石から右袖石のラインの直線上に配置し、右袖石との隙間に小さな石30×50cmの大きさのものを玄室方向へはみ出し気味に斜めに用いて補っている。この石は斜めに配置しているが、框石の最大幅40cm前後に合致するように意識して置かれている。

また框石は床面上に置かれただけで、床面下には深く埋められてはいない。

前室は長さ1.5m、幅2～2.2mを測る略長方形プランを呈す。両側壁部には高さ80cm+ $\alpha$ 、幅80～100cm前後の石を一石ずつ腰石としている。

右側壁の腰石が、前門部に近い所でわずかに内側に配置されて幅を狭くしている。右側壁腰石の上部の石は抜かれ積み方などは分らない。

左側壁腰石の上部には、面取りされた石が一石だけ遺存する。

敷石は、現状では左右の側壁側付近しか遺存せず中央付近の床面の敷石は抜き取られている。これらは後室と同様の大きさ10～20cm前後の礫で全面に敷かれていたと思われる。

しかしながら、この敷石が追葬時のものか当初からのものであるかの判断はつかない。

前門の両袖には、玄門よりやや小ぶりの高さ80～100cm+ $\alpha$ 、幅50cm前後の柱状の石を一石配置して前門としている。前門の幅は1.1mを測り、玄門の幅とほぼ近い数値を示す。

前門の框石から前面は破壊され詳細は不明である。

框石の置かれた位置の地山には、石の抜き跡らしいものが確認されないことから前門の框石も玄門の框石同様に掘り方は設けず、ただ床面上に配置されただけの可能性がつよい。

羨道部や墓道部は、前述のように材木の切り出し用の道のために削平されて詳細は不明である。

石室内に遺存する石材は、すべて花崗岩が使用されていて他は確認できなかった。

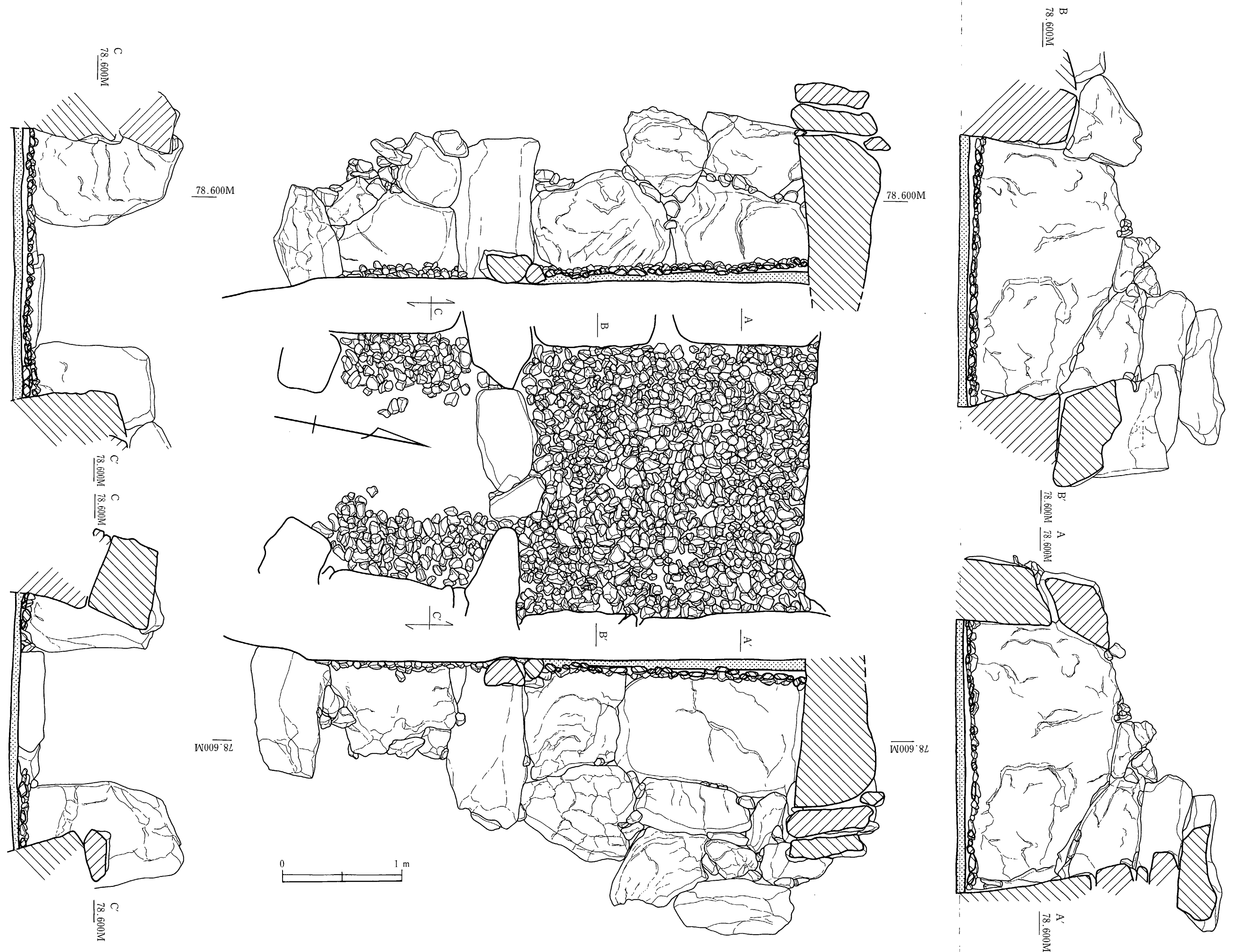


Fig.6 石室実測図 (S1/30)

PL.4 石室全景



真上より



羨道部より



西より

PL.5 床面

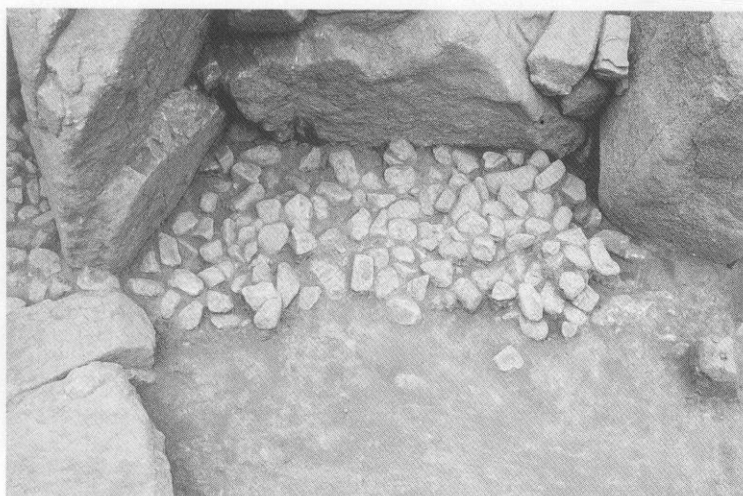


玄室床面

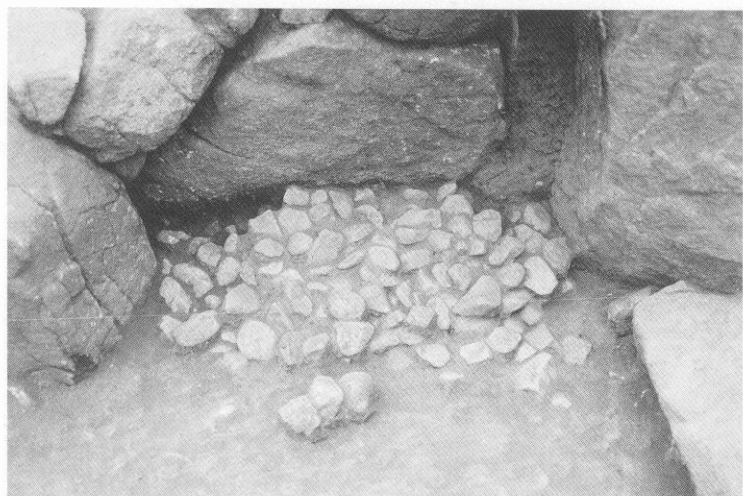


前室床面





前室左側床面



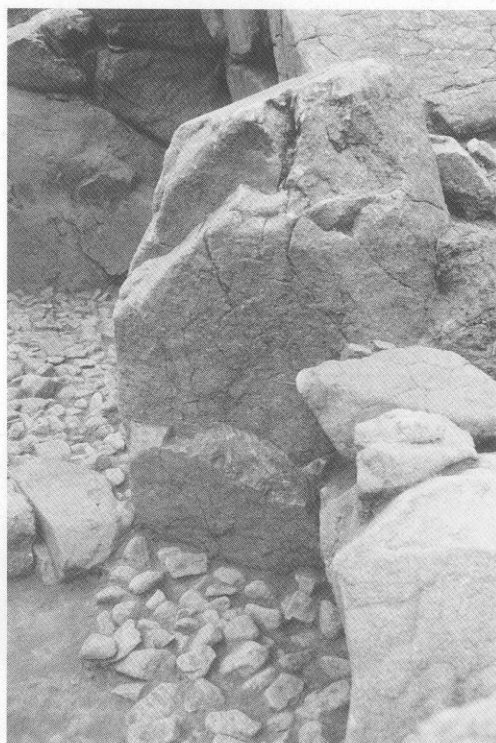
前室右側床面



前門（玄室から）



左玄門（玄室から）



右玄門（前室から）

PL.7 遺物出土状況



Fig. 8-16



Fig. 8-15



敷石残存状況および鉄器

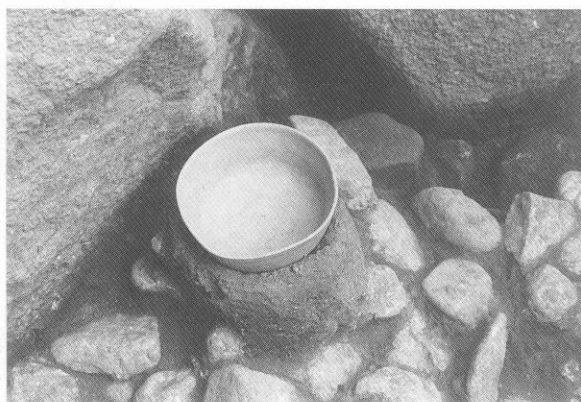


Fig. 8-20

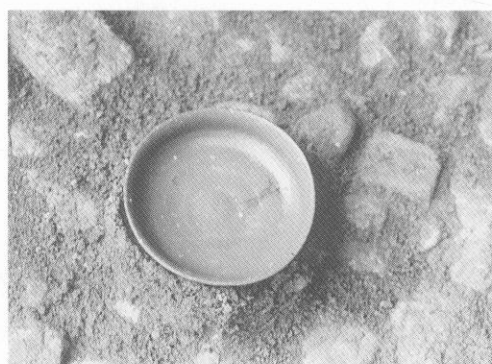


Fig. 8-19



Fig. 8-21



Fig. 8-17



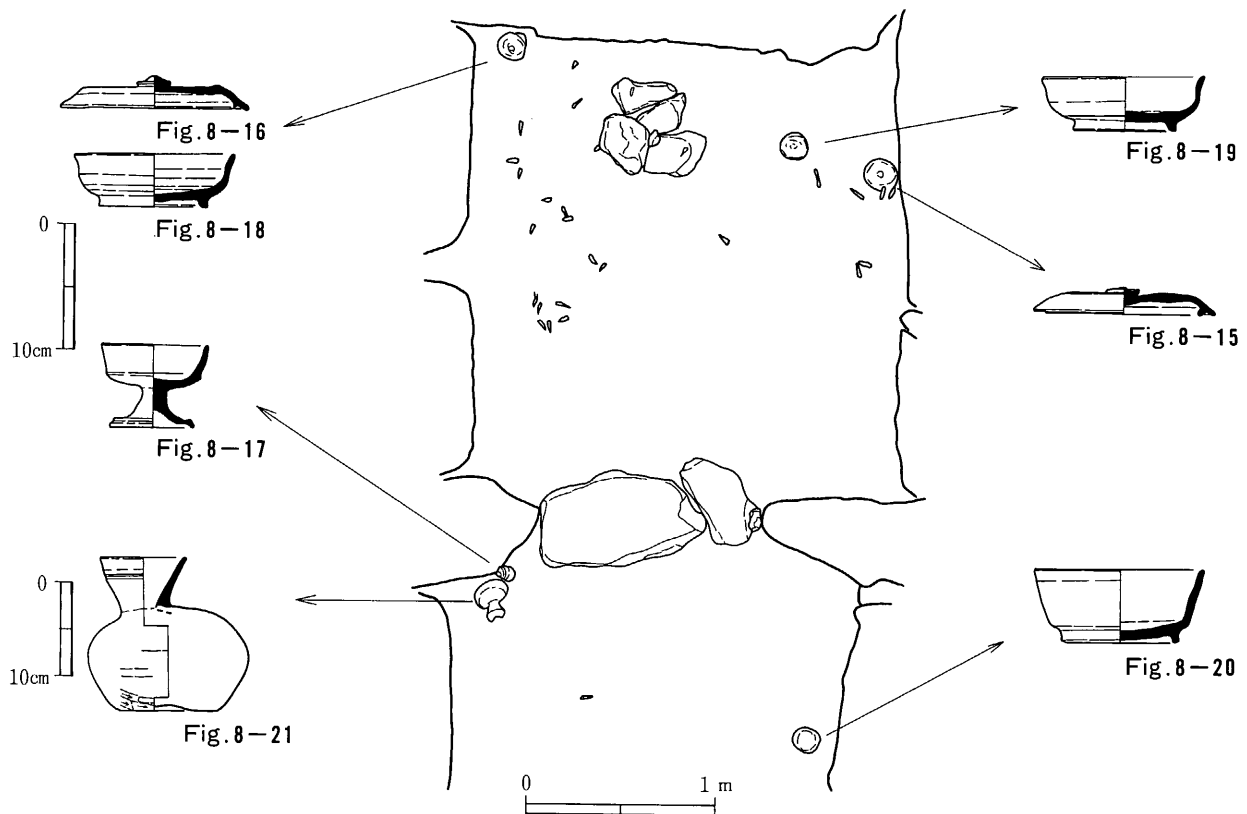


Fig.7 遺物出土状況 (S1/40・1/6・1/8)

遺物 (Fig.8・9, PL.8・9)

出土状況 (Fig.7, PL.7)

羨道部や墓道部は削平されているため遺物の状況は不明である。

玄室や前室の埋土中からもわずかに遺物が出土したが、原位置を保ったものではない。

出土した遺物は玄室・前室の二ヶ所に大きく分けられる。

その遺物 (Fig.8-15~21) のほとんどが腰石に接した隅のほうのもので、後室や前室も荒らされてはいるが、これらのいくつかは、ほぼ原位置を保っていると考えられる。

前室から出土した遺物は、17・20・21で、そのうち17・21は左袖石の前室側から出土。出土状況で観察するかぎり追葬時に原位置が、わずかに動いた可能性は否定できない。ただその後前面に閉塞が作られたため、遺物は見えにくい状況になり、中世以降の盗掘を免れたのかもしれない。

17は須恵器の高坏で受部が下を向き、逆さまの状態です。平瓶21に接してあった。20の坏身は前室の右側壁の近くで敷石に接するようにあった。

玄室内で確実に原位置を保ったと思われるものは、16・18の坏のセットで、右奥壁のコーナー付近で敷石に接して出土した。15・19の蓋と身は安定した状態で出土したが、敷石に接することなく、やや浮いた状態であったことや15の蓋の上に2本の釘があったことを考慮すると追葬もしくは盗掘時に多少移動した可能性はのこる。また玄室の敷石上に30本の釘が出土した。釘は玄室の両側壁付近から出土したが、その多くが左側壁側の出土である。釘の出土状況を勘案すると頭部を奥壁側にして先端部が袖石側を向いた同一方向の釘が並ぶ状況を窺うことができる。このことは左側壁側に沿って木棺が安置されていたことを示唆している。

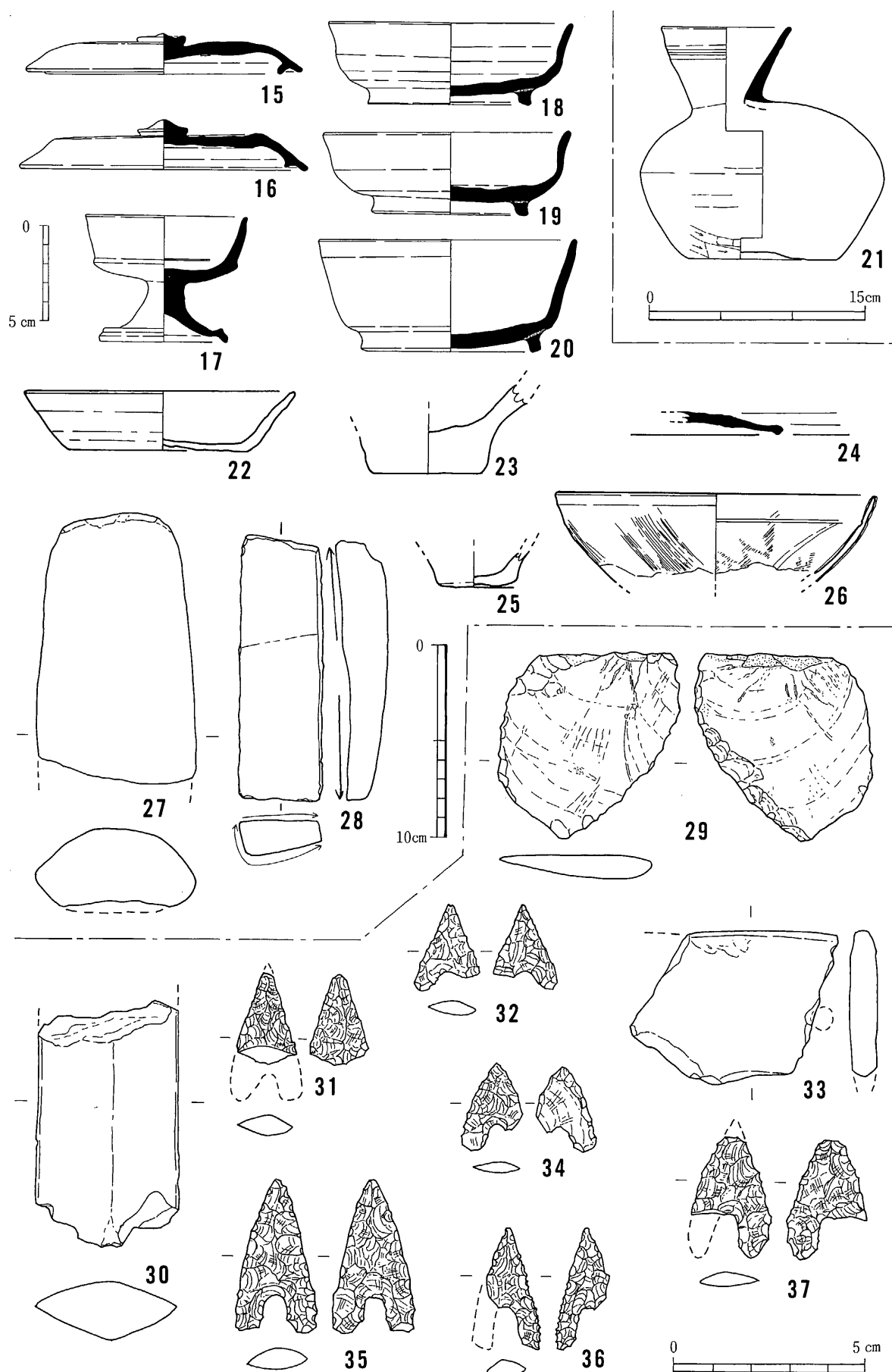


Fig.8 出土遺物実測図 (S1/3・2/3・1/4)



Fig. 8-15

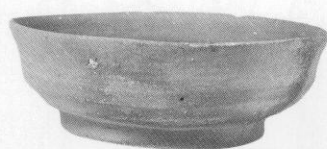


Fig. 8-18



Fig. 8-21

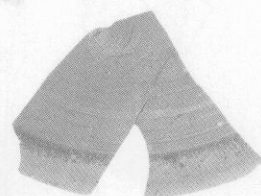


Fig. 8-24



Fig. 8-16



Fig. 8-19



Fig. 8-26



Fig. 8-17



Fig. 8-20



Fig. 8-23



Fig. 8-22

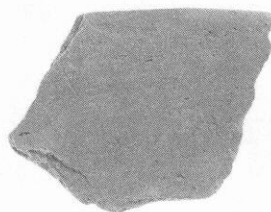


Fig. 8-33



Fig. 8-25



Fig. 8-27

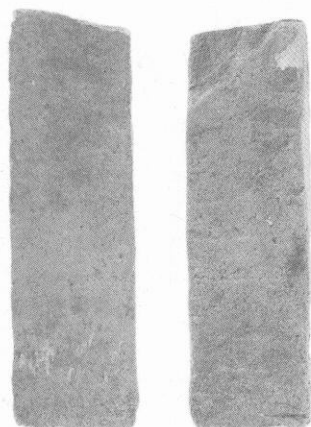


Fig. 8-28

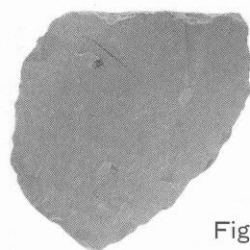


Fig. 8-29

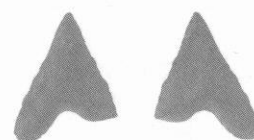
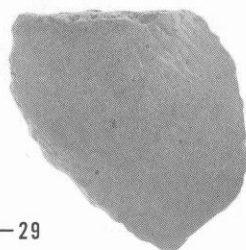


Fig. 8-32

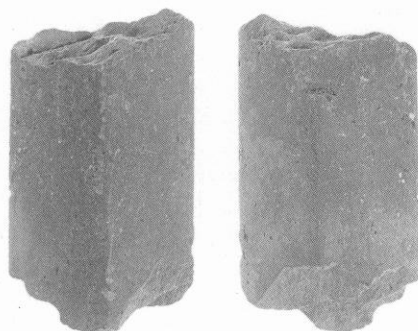


Fig. 8-30

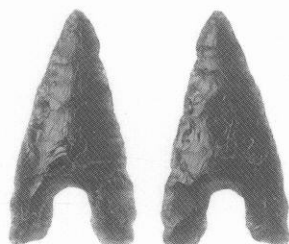


Fig. 8-35

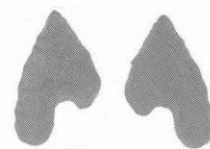


Fig. 8-34

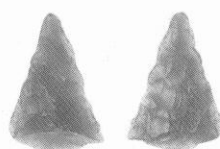


Fig. 8-31

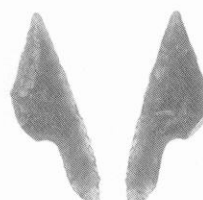


Fig. 8-36

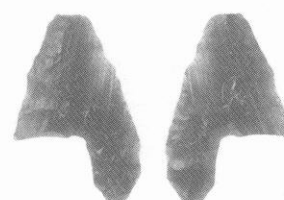


Fig. 8-37

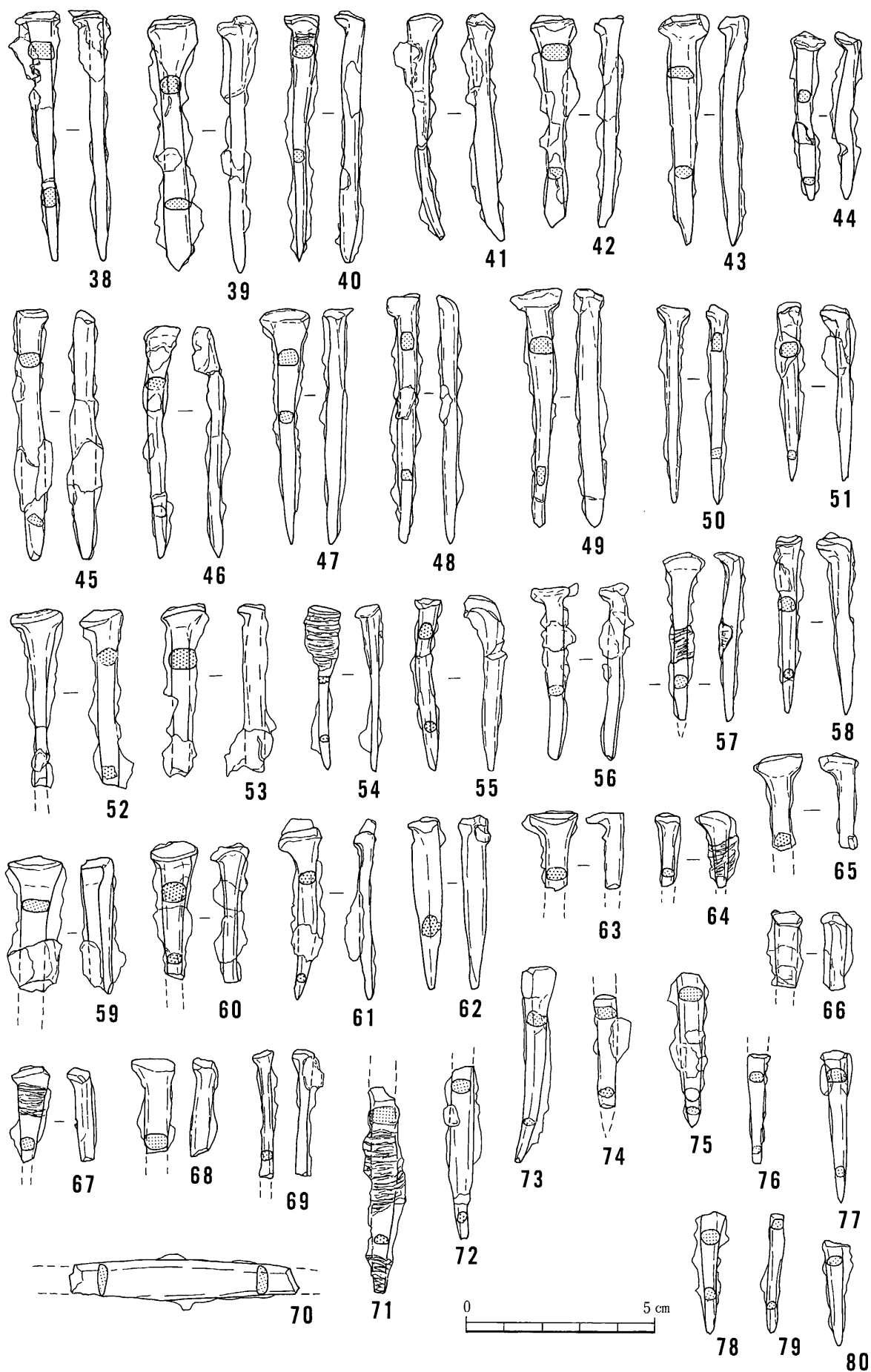
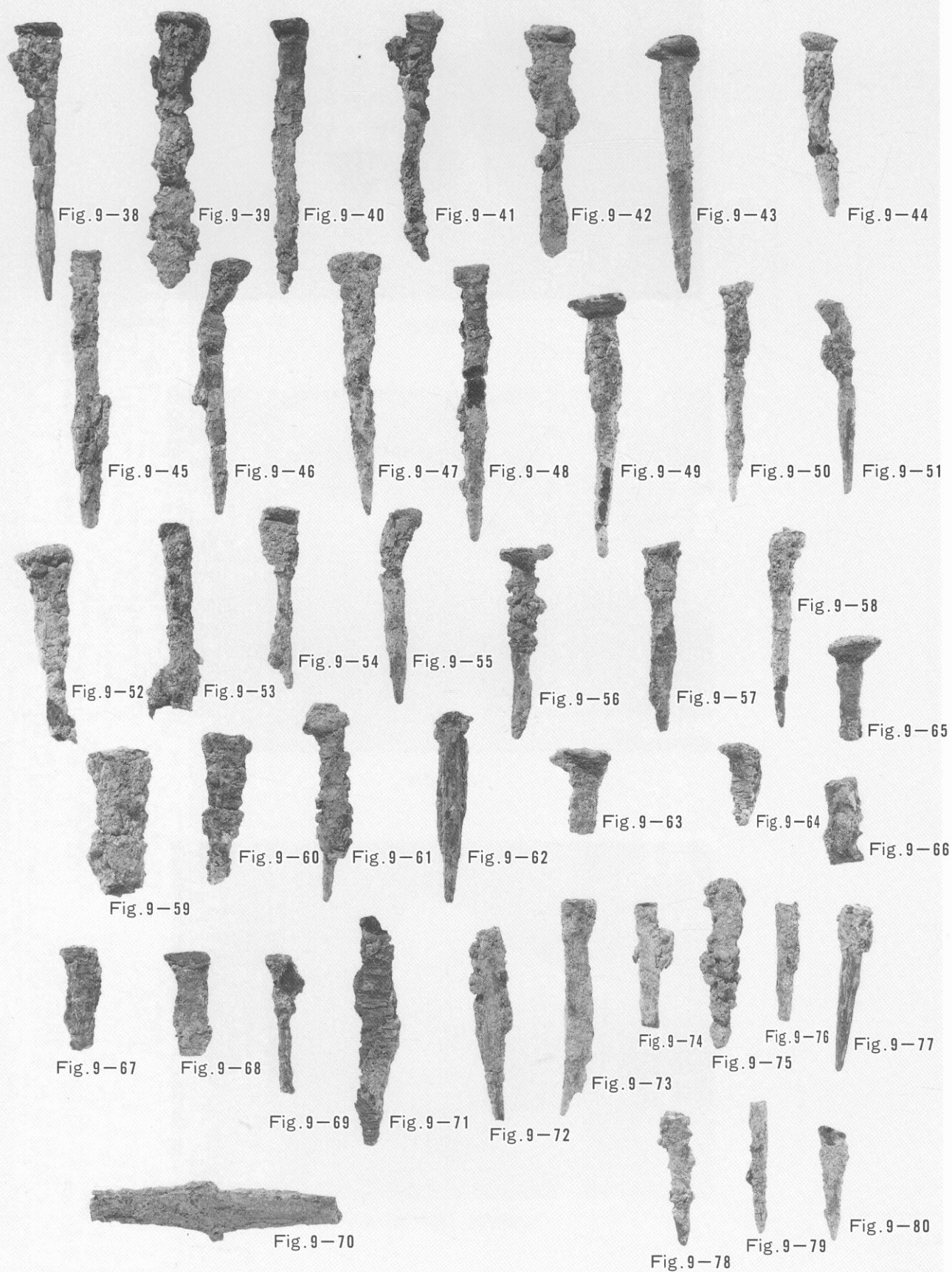


Fig. 9 出土鉄器実測図 (S2/3)





PL.10 閉塞部



右側閉塞



左側閉塞



左側閉塞（側壁側から）

表-2 出土釘・鉄鏃一覽表

| No.      | 残存長           | 径(幅)    | 状態 | 木質残存 | No.      | 残存長           | 径(幅)    | 状態 | 木質残存 |
|----------|---------------|---------|----|------|----------|---------------|---------|----|------|
| Fig.9-38 | 6.7           | 0.6 0.4 | 完  | 無    | Fig.9-59 | 3.7+ $\alpha$ | 0.7     | 欠  | 無    |
| 39       | 6.9           | 0.6 0.5 | 完  | 無    | 60       | 3.7+ $\alpha$ | 0.7 0.4 | 欠  | 無    |
| 40       | 6.7           | 0.6 0.3 | 完  | 有    | 61       | 4.9           | 0.5 0.3 | 完  | 無    |
| 41       | 6.1           | 0.3     | 完  | 無    | 62       | 4.6           | 0.5     | 完  | 無    |
| 42       | 5.7           | 0.8 0.4 | 完  | 無    | 63       | 2.2+ $\alpha$ | 0.6     | 欠  | 無    |
| 43       | 6.2           | 0.7 0.4 | 完  | 無    | 64       | 2.0+ $\alpha$ | 0.3     | 欠  | 有    |
| 44       | 4.5           | 0.4     | 完  | 無    | 65       | 2.6+ $\alpha$ | 0.6 0.5 | 欠  | 無    |
| 45       | 6.7           | 0.5     | 完  | 無    | 66       | 2.1+ $\alpha$ | 0.6     | 欠  | 無    |
| 46       | 6.2           | 0.4 0.3 | 完  | 無    | 67       | 2.6+ $\alpha$ | 0.8 0.4 | 欠  | 有    |
| 47       | 6.2           | 0.5 0.3 | 完  | 無    | 68       | 2.7+ $\alpha$ | 0.7 0.6 | 欠  | 無    |
| 48       | 6.7           | 0.5 0.3 | 完  | 無    | 69       | 3.4+ $\alpha$ | 0.3     | 欠  | 無    |
| 49       | 6.2           | 0.6 0.2 | 完  | 無    | 71       | 5.5+ $\alpha$ | 0.7 0.4 | 欠  | 有    |
| 50       | 5.4           | 0.3 0.2 | 完  | 無    | 72       | 4.7+ $\alpha$ | 0.5 0.2 | 欠  | 無    |
| 51       | 4.7           | 0.4 0.3 | 完  | 無    | 73       | 5.2           | 0.6 0.3 | 完  | 無    |
| 52       | 4.9+ $\alpha$ | 0.6 0.3 | 欠  | 無    | 74       | 3.1+ $\alpha$ | 0.5     | 欠  | 無    |
| 53       | 4.6+ $\alpha$ | 0.4     | 欠  | 無    | 75       | 4.7           | 0.6 0.5 | 完  | 無    |
| 54       | 4.5           | 0.2     | 完  | 有    | 76       | 2.9+ $\alpha$ | 0.4 0.3 | 欠  | 無    |
| 55       | 4.7           | 0.4 0.3 | 完  | 無    | 77       | 4.1           | 0.6 0.2 | 完  | 無    |
| 56       | 4.7           | 0.4 0.3 | 完  | 無    | 78       | 3.3           | 0.6 0.3 | 完  | 無    |
| 57       | 4.6+ $\alpha$ | 0.5     | 欠  | 有    | 79       | 3.2           | 0.4 0.2 | 完  | 無    |
| 58       | 4.9           | 0.5 0.3 | 完  | 無    | 80       | 2.8           | 0.4     | 完  | 無    |

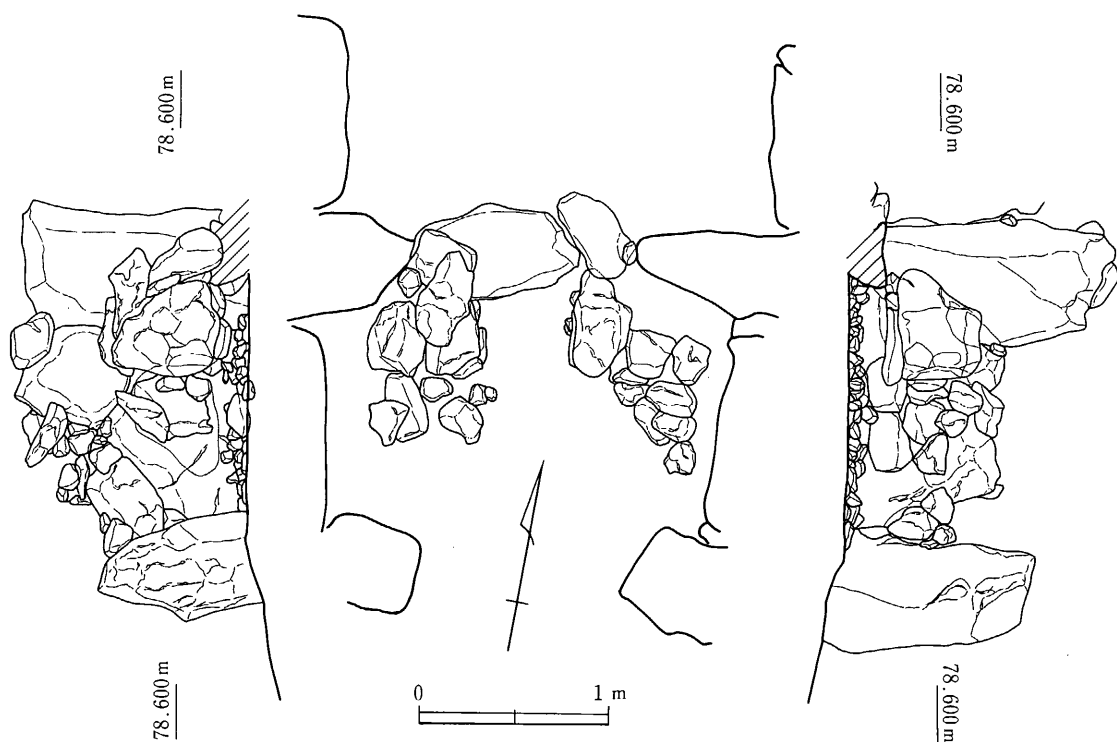


Fig.10 閉塞部残存状況 (S1/40)

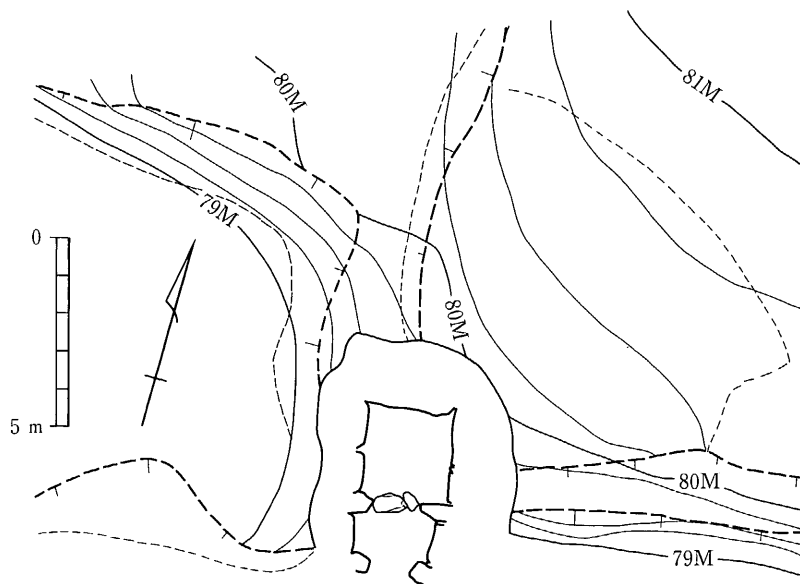


Fig.11 地山整形図 (S1/200)

出土した鉄器は1点の刀子片70と71・72・75～80の鉄鏃の茎を除けば、ほとんどが釘であることが特徴として挙げられる。

このような棺釘の出土例はあまり多くなく、特殊な葬法と言える。また8点の鉄鏃が出土しているが、すべて埋土中のもので敷石上に接して出土したものではなかった。

鉄鏃が群集墳の副葬品として普遍的な出土を見せる状況からは、やや掛け離れた感がある。盗掘があった可能性は否定できないものの他の鉄器すなわち馬具や武器の出土数が少ない状況は、木棺に葬られた被葬者との関連を想定させるが現段階での言及は難しい。

#### 閉塞部 (Fig.10, PL.10)

現存の閉塞は後門の框石の上に配置されている。調査時には中央部の閉塞石が取り払われて左右の閉塞しかない状況であった。前室中央付近の敷石も失われていることから、ここから盗掘があったことを示している。

閉塞石の積み方は、框石と同じ高さに20～30cmの大きさの小ぶりの石を前室側に置き下部を安定させ、その上に50cm前後の大きさの転石を框石から塞ぐように配し、隙間には粘土などは用いず、小ぶりの石を充填して設置し、上に小ぶりの転石を積み上げて構築している。現存する閉塞部の長さは框石から前室の中央付近までで、ほぼ前室の中央部までを塞ぐようにあるが、前室の左右の腰石には接することなく腰石と閉塞石には隙間がある。

従来の閉塞施設は、当然ながら前室の框石の前面と考えられるが前門付近から削平されているため、当初に作られた閉塞施設を現状では窺うことはできない。

現存する閉塞部の時期は、右側の閉塞石の下から出土した高台坏 (Fig.8-20) や玄室内の釘の下蓋 (Fig.8-15) により推測することができる。

これらの土器の時期は、小田富士雄氏の編年VI期に該当する。高台坏は閉塞石の下に完全に隠れた状態で出土した。このことから現存する閉塞施設は少なくともVI期段階の追葬時に設置されたものとは考え難く、その後のものと考えることができ、もしかしたら木棺が追葬された時期に伴う閉塞施設のものかも知れない。

### 地山整形 (Fig.11)

宮地岳より派生した尾根線より南側の小谷を望む比較的緩やかな斜面の等高線に直交して構築される。

古墳の占地する周辺は、既に改変が進み、旧地形が把握できにくい、調査結果からみると丘陵尾根線より南側の谷に向かって下がる傾斜変換線と思われる位置に立地していたといえる。これは古墳構築の際の労力の省力化と谷部から古墳を見た場合、古墳が実際より大きく見える効果を意識したものと考えられる。

地山整形は、標高80m前後の玄室部分と前門部・羨道・墓道部の二段階に分けて掘削し整形していると思われる。石室構築面は平坦面をなし、掘り方の大きさは、長軸  $6\text{ m} + \alpha$ 、短軸 5 m の不整隅丸長方形を呈し、前門付近までが地山掘削による掘り方を形成していたと考えられる。

## IV. ま と め

老松神社古墳群の1号墳に関しては残念ながら確実に古墳が所在したか否か詳細を明確にすることはできなかったが、2号墳は複室両袖式横穴式石室を内部主体とするものであることが明確になった。

2号墳の構築された時期は、前室内の閉塞石にかくれて出土した土器IV期、7世紀前半に設定することも考えられるが、推定墓道部の周辺や表土中からはIII b期の坏の細片が出土し、これらを追葬時のかき出しによるものと想定すると造営された時期は6世紀後半の可能性ものこる。ただこれらの遺物が直接玄室内からの出土でないことや追葬時のかき出しがあっても遺物の絶対量が極めて少ないことは考慮しなければならない。

玄室内の土器の出土状況や複数の敷石の状況などから、追葬は7世紀後半までに確実に数回行われていたことを推測させるが、これ以降も閉塞施設で述べたように再利用により墓地としての役割があったことは想定される。

また2号墳の特徴として玄室の敷石上から出土した多くの釘は、木棺埋葬を想定させる。

市域では2号墳と同時期にある古墳の石室から明確に釘が出土した事例は現段階ではない。周辺域の古墳で7世紀前半～8世紀前半までに釘が出土した古墳は、周辺域でも筑紫郡那珂川町観音山古墳群中5基、甘木市柿原古墳群の内7基と少ない。無論釘の使用されていないケースも考慮する必要はあるが、特種な葬法といえよう。

14世紀に該当する土器が、石室埋土中から出土したことは墓前祭祀あるいは墓として再利用されたことを推測させるとともに閉塞施設の設置との関連が考えられ、興味深いものがある。

これら中世墓と古墳の関連の研究は特に関西以東では近年著しく、先行研究で指摘されている。中世の人々の古墳観は、「宇治拾遺物語」や「一遍聖絵」に描かれた塚状の墓にまつわる話が多くある。つまり塚には遺体埋葬があり、墓と考えられていたことを表している。このことから塚＝古墳の概念が導きだされて、そこから古墳の石室内を利用したり、あるいは古墳の墳丘斜面や古墳群の所在する丘陵斜面を利用した墳墓群を形成していったのは、古墳に寄り添うことによって後生を結縁することができるという願望だったかも知れない。

これに該当する調査例は栃木県・静岡県・茨城県などがあるが、市域では隈・西小田第7地点第7号墳があげられる。ここでは墳丘東南側を造成し70数基の墓と五輪塔などが造られていた。

これらは古墳時代以来の葬送儀礼が古代で断絶した後にも、これらの古墳が墓として人々に意識されていた結果だったかも知れない。

表-3 掲載遺物観察表

| Fig番号 | 器 種        | 大 き さ<br>cm |             |              | 調 整                                                                                                                                             | 備 考   |
|-------|------------|-------------|-------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
|       |            | 口径(長さ)      | 底径(幅)       | 器高(厚)        |                                                                                                                                                 |       |
| 4-1   | 須恵器<br>坏 身 | 11.0        |             | 4.8          | かえり部ナデ、内底面タタキ後ナデ、外面体部上位ヘラケズリ後ナデ、外底面ナデ、ロクロ回転右、内外面黄褐色2.5Y7/3、胎土やや精、焼成ふつつ                                                                          |       |
| 4-2   | 須恵器<br>坏 身 |             |             | 4.0          | かえり部ナデ、内面体部上位タタキ後ナデ、内底面ナデ、外面体部ヘラケズリ後ナデ、外底面ナデ、ロクロ回転右、内外面黄褐色2.5Y7/3、焼成ややあまい                                                                       |       |
| 4-3   | 弥 生<br>甕   |             |             | 残存高<br>5.5   | 器表摩耗、内面明黄褐色10YR7/3、外面明黄褐色10YR6/6、胎土細砂粒を含む、焼成ふつつ                                                                                                 |       |
| 4-4   | 弥 生<br>甕   |             |             | 残存高<br>5.4   | 器表摩耗、丹塗り、胎土細砂粒、わずかに石英粒を含む                                                                                                                       |       |
| 4-5   | 弥 生<br>甕   |             |             | 残存高<br>2.7   | 器表摩耗、わずかに丹が残る、内外面にふい橙色7.5YR7/4、細砂粒を含む、焼成ふつつ                                                                                                     |       |
| 4-6   | 弥 生<br>甕   |             |             | 残存高<br>4.4   | 器表摩耗、内面橙色7.5YR6/6、外面明黄褐色10YR7/6、胎土細砂粒、焼成ややあまい                                                                                                   |       |
| 4-7   | 弥 生<br>蓋   |             |             | 残存高<br>2.4   | 内外面ナデ、内面橙色5YR7/6、外面橙色7.5YR7/6、胎土わずかな細砂粒を含む、焼成ふつつ                                                                                                |       |
| 4-8   | 弥 生<br>甕   |             | 7.4         | 残存高<br>2.5   | 内外面ナデ、内底面一部指頭圧痕、内面にふい黄褐色10YR6/4、外面にふい橙色一部黒色10YR2/1、胎土微砂粒少々含む、焼成良                                                                                |       |
| 4-9   | 弥 生<br>甕   |             | 7.6         | 残存高<br>3.5   | 内外面ナデ、わずかなあげ底、内面にふい黄褐色10YR7/3、外面にふい黄褐色10YR6/4、胎土きめ細いわずかな細砂粒、焼成良                                                                                 |       |
| 4-10  | 弥 生<br>甕   |             | 8.4         | 残存高<br>3.3   | 器表摩耗、内底面に帯状の突起あり、わずかなあげ底、内外面橙色7.5YR7/6、胎土1mm程の砂粒をわずかに含む、焼成ふつつ                                                                                   |       |
| 4-11  | 須恵器<br>坏 身 | 12.0        | 7.1         | 4.0          | 内外面ナデ、外面体部下位ヘラケズリ後ナデ、内面灰色7.5Y6/1、外面灰色N6/、胎土ごくわずかな微砂粒、ウンモ少々含む、焼成良                                                                                |       |
| 4-12  | 弥 生<br>甕   |             | 7.4         | 残存高<br>4.8   | 内底面指頭痕ナデ、外面器表摩耗一部細いハケメ、内面にふい黄褐色10YR7/4、外面にふい黄褐色10YR6/4、胎土微砂粒を含む、焼成ふつつ                                                                           |       |
| 4-13  | 石 鏃        | 2.5         | 1.3         | 0.5          | 切先と一方の脚部欠損                                                                                                                                      | 黒曜石   |
| 4-14  | 扁平片刃石斧     | 2.9         | 3.5         | 0.8          | 基部欠損                                                                                                                                            | 粘板岩   |
| 8-15  | 須恵器<br>坏 蓋 | 14.4        |             | 2.15         | かえり部ヨコナデ、内天井ヨコナデ後ナデ、外天井ケズリツマミヨコナデ、外面自然輪付着、ロクロ回転右、内外面灰色N6、暗灰色N3、胎土1~1.5mm程の砂粒含む、焼成良、完形                                                           |       |
| 8-16  | 須恵器<br>坏 蓋 | 15.05       |             | 2.6          | かえり部ヨコナデ、内天井ヨコナデ後ナデ、一部ナデ、外天井ヘラ切り後ヘラケズリ、ツマミヨコナデ、ロクロ回転右、内外面灰色5Y5/1、胎土1~2mm程の砂粒含む、焼成良、完形                                                           |       |
| 8-17  | 須恵器<br>高 坏 | 8.5         | 裾部径<br>6.65 | 6.65         | 内底面ヨコナデ後ナデ、口縁部から外底面までヨコナデ、内面沈線あり、ロクロ回転不明、内面明褐色5YR5/6YR、外面明赤褐色5YR5/6YR、黒褐色5YR3/1YR、胎土0.5~1mm程の砂粒を含む、焼成ふつつ                                        |       |
| 8-18  | 須恵器<br>坏 身 | 12.8        | 高台径<br>8.5  | 4.3          | 内底面ヨコナデ後ナデ、内外面ヨコナデ、外底面ヘラ切り後ナデ、一部ヘラ切り後ヨコナデ、外面自然輪付着、ロクロ回転右、内外面黄褐色2.5Y5/1、胎土1~2mm程の砂粒を含む、焼成良、完形                                                    |       |
| 8-19  | 須恵器<br>坏 身 | 12.95       | 高台径<br>8.2  | 4.45         | 内底面ヨコナデ後ナデ、内外面ヨコナデ、外底面ヘラ切り後ヨコナデ、外面自然輪付着、ロクロ回転右、内外面黄褐色7.5Y5/1、胎土1~2mm程の砂粒を多く含む、焼成良、完形                                                            |       |
| 8-20  | 須恵器<br>坏 身 | 13.5        | 高台径<br>9.4  | 5.85         | 内面体部ヨコナデ後ナデ、内外面ナデ、口縁部から外面体部ヨコナデ、外底面ナデ、外面自然輪付着、ロクロ回転左、内面灰色10Y6/1、外面灰色7.5Y6/1・5/1、胎土0.5~1.5mm程の砂粒含む、焼成良、完形                                        |       |
| 8-21  | 須恵器<br>平 瓶 | 9.0         | 10.2        | 16.25        | 口縁部ヨコナデ外面口縁沈線、外面体部中位ヨコナデ後ナデ、体部中位ケズリ後ナデ、体部下位ケズリ後ナデ後ナデ、外底面細い圧痕後ナデ、底面中央部あげ底およびナデ、内外面一部自然輪付着、ロクロ回転右、内外面暗褐色5G3/1青黒 7/1、胎土0.5~1.5mm程の砂粒を多く含む、焼成良、ほぼ完形 |       |
| 8-23  | 弥 生<br>甕   |             | 6.2         | 残存高<br>4.8   | 器表摩耗、内面にふい黄褐色10YR7/4、外面淡赤褐色2.5YR7/4、胎土砂粒を多く含む、3mm程の砂を少々含む、焼成あまい                                                                                 |       |
| 8-24  | 須恵器<br>坏 蓋 | 5.5         |             | 1.1          | 内外面ナデ、ロクロ回転右、内外面灰色N6/、胎土精、焼成良                                                                                                                   |       |
| 8-25  | 甕          |             | 4.2         | 残存高<br>2.0   | 器表摩耗、内外面にふい黄褐色10YR7/4一部黒色、胎土1mm程の砂粒を多く含む                                                                                                        |       |
| 8-26  | 青 磁<br>碗   | 16.7        |             | 残存高<br>4.75  | 内外面施釉、内面片切り櫛抽文、沈線、一状、外面櫛抽文、内外面ミントグリーン3GY2.0/7.5、胎土シルバーグレイN7.5、焼成良                                                                               |       |
| 8-27  | 蛤刃石斧       | 14.0        | 8.4         | 4.0          | 刃部欠損あり                                                                                                                                          | 玄武岩   |
| 8-28  | 砥 石        | 13.8        | 4.2         | 1.1 ~<br>1.8 |                                                                                                                                                 | 細粒砂岩  |
| 8-29  | スクレイパー     | 4.9         | 3.9         | 0.6          | 打面に表皮あり                                                                                                                                         | サヌカイト |
| 8-30  | 石剣片        | 6.0         | 3.6         | 1.5          | 基部・切先欠損                                                                                                                                         | 赤紫粘板岩 |
| 8-31  | 石 鏃        | 2.5         | 1.6         | 0.5          | 切先のみ                                                                                                                                            | 黒曜石   |
| 8-32  | 石 鏃        | 2.3         | 1.3         | 0.4          | 広義の剥片鏃                                                                                                                                          | サヌカイト |
| 8-33  | 石包丁片       | 4.7         | 4.0         | 0.7          |                                                                                                                                                 | 赤紫粘板岩 |
| 8-34  | 石 鏃        | 2.3         | 1.3         | 0.3          | 広義の剥片鏃                                                                                                                                          | サヌカイト |
| 8-35  | 石 鏃        | 4.0         | 1.6         | 0.6          |                                                                                                                                                 | 黒曜石   |
| 8-36  | 鉬歯鏃        | 3.2         | 1.0         | 0.5          |                                                                                                                                                 | 黒曜石   |
| 8-37  | 石 鏃        | 3.2         | 1.6         | 0.4          | 広義の剥片鏃                                                                                                                                          | 黒曜石   |



# 報 告 書 抄 録

| ふ り が な                          | おいまつじんじゃこふんぐん                                 |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
|----------------------------------|-----------------------------------------------|----------|------------------------|--------------------|--------------------|-----------------------|---------------------------|-----------|
| 書 名                              | 老松神社古墳群                                       |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| 副 書 名                            | 配水池築造工事に伴う発掘調査                                |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| 巻 次                              | 第50集                                          |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| シ リ ー ズ 名                        |                                               |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| シ リ ー ズ 番 号                      |                                               |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| 編 集 者 名                          | 渡 邊 和 子                                       |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| 編 集 機 関                          | 筑紫野市教育委員会（文化課 文化財担当）                          |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| 所 在 地                            | 〒818-8686 筑紫野市大字二日市西1-1-1 TEL 092-923-1111(代) |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| 発 行 年 月 日                        | 西暦2002年 1 月31日                                |          |                        |                    |                    |                       |                           |           |
| ふ り が な<br>所収遺跡名                 | ふ り が な<br>所 在 地                              | コード      |                        | 北緯                 | 東経                 | 調査期間                  | 調査面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 調査原因      |
|                                  |                                               | 市 町 村    | 遺跡番号                   |                    |                    |                       |                           |           |
| おいまつじんじゃ<br>老松神社<br>こふんぐん<br>古墳群 | ちくしのし<br>筑紫野市                                 | 176      | 254<br>255             | 32度<br>37分<br>47秒  | 131度<br>34分<br>25秒 | 950822<br>}<br>950930 | 700<br>m <sup>2</sup>     | 配水池<br>建設 |
| 所収遺跡名                            | 種別                                            | 主な時代     | 主 な 遺 構                | 主 な 遺 物            |                    | 特 記 事 項               |                           |           |
| 老松神社<br>古墳群                      | 古墳                                            | 弥生<br>古墳 | 複室横穴式古墳<br>溝状遺構<br>ピット | 須恵器<br>土師器<br>弥生土器 |                    |                       |                           |           |

**老松神社古墳群**  
**配水池築造工事に伴う発掘調査**

筑紫野市文化財調査報告書

第50集

平成14年1月31日

発行 筑紫野市教育委員会

〒818-8686 福岡県筑紫野市大字二日市西1-1-1

TEL 092-923-1111(代)

FAX 092-923-9644

印刷 大同印刷株式会社

〒840-0815 佐賀市天神一丁目1番32号

TEL 0952-24-8450(代)

FAX 0952-28-5583

URL <http://www.daidou-jp.com>.



付図 老松神社古墳群および調査範囲図 (S1/200)